

おかえりなさい花森さん



特別展

花森安治

『暮しの手帖』の絵と神戸

2020.12.19(土)～2021.3.14(日)

前期展示：12月19日～1月31日、後期展示：2月2日～3月14日

休館日：毎週月曜日(祝日の場合開館)、12月28日～1月4日、1月12日(火)

開館時間：午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

入館料：一般1,000円(団体800円)、大学生500円(団体400円)

*20名以上は団体割引料金

*学生証・生徒手帳を提示の小中高校生は無料、神戸市居住の65歳以上の方は一般料金の半額

主催：神戸ゆかりの美術館、神戸新聞社

特別協力：世田谷美術館、暮らしの手帖社

花森安治の写真(1952年)と『暮らしの手帖』1世紀37号表紙原画を合成(画像提供：暮らしの手帖社)

神戸ゆかりの美術館
KOBE ARTISTS MUSEUM

特別展

花森安治

『暮らしの手帖』の絵と神戸

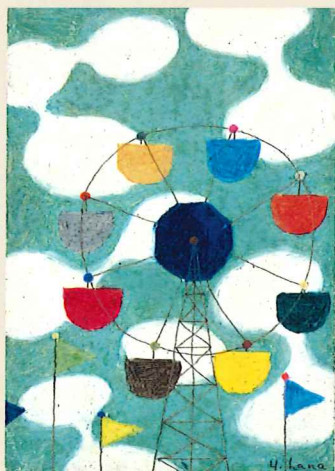
『暮らしの手帖』は、衣食住の知恵と工夫をはじめ多彩で魅力的な情報を発信する雑誌です。創刊は1948年(当初の誌名は『美しい暮らしの手帖』)。その初代編集長で、あらゆる分野において手腕を発揮したのが、神戸市出身の花森安治(1911~1978)でした。

彼は兵庫県立第三神戸中学校(現・県立長田高等学校)を卒業後、旧制松江高等学校、東京帝国大学に学びました。1938~39年、召集されて満州で過ごし、病を得て帰国後は、大政翼賛会の仕事に従事しました。敗戦後の1945年秋、花森は大橋鎮子と出会い、翌年に大橋を社長とする衣裳研究所(現・暮らしの手帖社)を設立します。

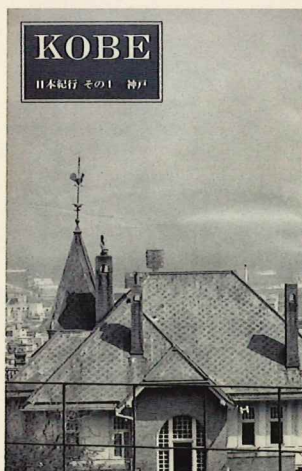
花森が編集長だった当時の誌面をふり返ると、約40~70年前にもかかわらず、画家の随筆や、各地の紀行、人物ルポルタージュなど驚くほど多彩です。ここでは彼が30年間にわたり描き続けた『暮らしの手帖』の表紙原画、神戸・大阪にゆかりのある記事、貴重な写真、神戸を描いた当館所蔵作品を紹介します。



花森安治 『美しい暮らしの手帖』 1世紀1号 表紙原画 1948年 水彩・紙
世田谷美術館蔵(前期展示)



花森安治 『美しい暮らしの手帖』 1世紀24号 表紙原画
1954年 オイル・バスティル、色鉛筆・紙
世田谷美術館蔵(後期展示)



『暮らしの手帖』 1世紀71号 「日本紀行 その1 神戸」
1963年 暮らしの手帖社蔵



小松益喜 《山本通4丁目風景》 制作年不詳 油彩・キャンパス 当館蔵



棟方志功 『暮らしの手帖』 1世紀26号 「哀母記」挿画
1954年 墨、グワッシュ・紙 暮らしの手帖社蔵



川西英 『新神戸百景』より《六甲山ゴルフ場》 1952~61年
水彩、ポスターカラー・紙 当館蔵(後期展示)



角卓 《鮎景(神戸)》 1969年 油彩・キャンパス 当館蔵

【アクセス】

- JR「住吉駅」、阪神「魚崎駅」のりかえ、六甲ライナー「アイランドセンター駅」下車南東すぐ
- 阪急「御影駅」のりかえ。みなと観光バス「阪急御影駅南」バス停から「アジアワンセンター」下車南へ徒歩3分
- お車の方は美術館隣接の神戸ファッションプラザ駐車場(1日最大550円)をご利用ください。
- 阪神高速湾岸線「六甲アイランド北」ランプより約3分
- 阪神高速神戸線「魚崎」「摩耶」ランプより約10分

神戸ゆかりの美術館
KOBE ARTISTS MUSEUM

〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中2丁目9-1
TEL 078-858-1520
<https://www.city.kobe.lg.jp/yukarimuseum/>

